

別府市親亡き後等の問題解決策検討委員会（第10回） 会議録

- 1 日 時 平成27年12月17日（木）10時00分～12時00分
- 2 場 所 別府市役所5F教育委員会室
- 3 出席者
 - (1) 委 員 石原委員、大久保委員、大野有香委員、河村委員、田中委員、濱本委員、平野委員、古川委員、松永委員、大野光章委員（10名）
 - (2) 事務局 岩尾障害福祉課長、大野障害福祉課参事、牧主査、甲斐主任
- 4 議 題
解決策の検討について
- 5 配布資料
 - 資料1 別府市親亡き後等の問題解決策検討委員会（第9回）会議録
 - 資料2 第1部会開催結果
 - 資料3 第2部会開催結果
 - 資料4 横浜市後見的支援制度についての聞き取り内容まとめ
 - 資料5 宇佐市「居住サポート支援事業」調査票
 - 資料6 「相談」「見守り」「地域との関係性」のまとめ資料
- 6 議事概要
 - (1) 第1部会の検討結果についての報告（平野第1部会長）

第1部会では、「意思決定の支援体制がない」「生活スキルが不足している」「地域との関係性」の各課題について議論を行い、その結果は以下及び配布資料2のとおりであった。

 - ア 訓練の場について
 - ・ 訓練の場のあるべき体制として挙げられている「児童発達支援」「保育園・幼稚園・学校（支援学校）」「放課後デイ」は、支援の質をどう高めるかが問題となる。
 - ・ 家庭内の訓練については、「ピアサポートの拡充」に取り組む必要がある。
 - イ 生活支援の充実について
 - ・ 意思決定支援については、現在国が新たな施策を検討している。

- ・ 「生活支援の充実」の「障害福祉サービス等以外で普段の生活の中で常に見守りを受ける体制」として、「余暇・外出時」には、行動援護を自立訓練と組み合わせるといった支援体制を今後の取組として挙げるといった意見が出された。

ウ 地域との関係性について

- ・ 一般市民に対する啓発活動については、当事者から伝えていくことが重要である。

(2) 第2部会の検討結果についての報告（古川第2部会長）

第2部会では、「居住の場」「社会参加の場」「生計費」の各課題について議論を行い、その結果は以下及び配布資料3のとおりであった。なお、「地域との関係性」については、議論はしたが、まとめまでは至らなかった。

ア 居住の場について

- ・ 当事者が最も望むのは、「自宅」ではないか。部会では、重要度を「自宅」「賃貸住宅」「グループホーム」「施設」の順で考えた。
- ・ 「自宅」での生活を考える上では、地域の中でのつながりのため地域活動支援センターを増やしていく必要があるのではないかな。
- ・ 「賃貸住宅」（民間住宅）では、保証人がいないというのが大きな問題であるため、居住サポート事業を行うことが考えられる。
- ・ 「賃貸住宅」（公営住宅）では、抽選があつたり、バリアフリー改修ができないなどの問題がある。
- ・ 「グループホーム」では、利用者の費用負担が大きいことが問題である。また、グループホーム単体を増やしていくことは難しいので、施設、日中活動の場などとワンセットの多機能型事業所の整備促進を行うべきではないかな。

イ 社会参加の場について

- ・ 第1優先としては、「集いの場」の確保である。

ウ 生計費について

収入の中で一番現実的なものは年金であるが、それだけで生活できる額ではない。であれば、年金に追加して生活保護費や就労収入などの収入が必要となる。

(3) 各部会での検討結果について

追加修正等は特にない。

(4) 「相談」「見守り」「地域との関係性」の解決策の検討について

ア 相談について

- ・ 地域定着支援事業は行っているか。
- ・ 気軽に相談できる体制の①-2の「24時間対応できるシステムを官民一体となつてつくる」という部分は抽象的すぎるのでもう少し方

向性を出す必要がある。この委員会でどこまで方向性を出せるか。

- ・ 障がいのある人やその保護者が相談を受けるような体制であればお金がかからず有効ではないか。
- ・ 困難事例をきちんと解決するところまで持っていく体制でなければならないと思う。
- ・ 困難事例については、自立支援協議会がどれだけ機能するかが問題となる。
- ・ コーディネーターが最も重要。
- ・ 発達障がいの子の保護者は、子どもに障がいがあることをあまり公にはしたくないということもあり、相談できる場がないという現状がある。
- ・ なかなか相談に行くことができない人がいると思うが、そういう人たちをどう支援するのが大事ではないか。

イ 見守りについて

- ・ アウトリーチが大切。
- ・ 保健師という社会資源を組み込んだ支援体制をつくることはできないか。
- ・ 高齢者福祉では、年に何回か、様々な職種の人が集まってブレインストーミングをしたり、情報を分かち合ったりする場がある。障がい福祉でも同様な取組があってもいいのではないか。
- ・ 別府子ども福祉塾というのを今やっているが、講義したりディスカッションしたりしている。障がいの分野でもこのような集まりを作ったらいいと思う。

ウ 地域との関係性について

啓発は、教育委員会と連携して、PTAも巻き込むなどして行うといいのではないか。

(5) 次回の委員会について

次回委員会（第11回）は、2月に開催予定。